

イベント名	第3回会員セミナー「ALCEの学術性について考える会」		
実施委員会	事務局	開催場所	オンライン
開催日時	2022年6月18日(土) 14:00-15:30	参加人数	25名
参加資格	会員・非会員	参加費	無料
イベント概要(案内文など)			
<p>言語文化教育研究学会(ALCE)は設立より9年目となり、来年度は設立10年目という一つの節目を迎えます。設立以降、ALCEは拡大を続けており、様々な分野や立場の方々に構成されています。これにより専門の垣根を越えた議論ができるのではないかと思います。ではその中でALCEという学会の学術性はどのように確立されるのでしょうか。今回の会員セミナーでは、学術的に見たALCEの位置づけという観点から、ALCEとはどのような場であるのかを会員の皆様と話し合いました。</p>			
活動報告			
<p>当日は、(1)あなたにとってALCEとはどのような場か(2)ALCEの学術性とは何かという2つのトピックについてグループに分かれて話し合いました。最後に全体共有を行いました。以下、ディスカッション内容をいくつか紹介いたします。</p> <p>まず、(1)について、ALCEは「職場以外の人と話せる場」、「ホームのようなもの」、「多様な知的好奇心を満たしてくれる場」で、「個人が自由に発言できるコミュニティを持っていることが重要で、それが参加する人にとっての居場所となりうる」こと、(正解というわけではないが)ヒエラルキーがなく対等にいられる場であることがアカデミズムにつながるなどが挙げられました。</p> <p>また、(2)について、「学術性を支えるのは「なぜ」という問いではないか」、「間口は広くてもコアとなるものがあるのではないか」、「妥協的に合意するのではなく、合意形成を目指さない対話を続けることがALCEでは可能なのではないか」といった意見が出ました。また、「学術的な議論を交わす(いい意味で)バトルの場になっているか」といった問いも出されました。他にも、「研究としてきれいに形を整えるのではなく、失敗も含めたありのままの実践をALCEという場で共有し積み重ねていくことで、よりよくしていけるのではないか」、「様々な専門の方がいることがALCEのよさである一方、様々な専門の方たちによる議論の先に、本当に新しい価値観が生み出しているのかということを問い直すことに価値がある」、「今までの到達点や成果に対する進展を示すことが重要だと考えたときに、様々な実践に対して「いいね」で終わることなく学術性を問い直す場を学会が設けることは重要」といった意見が出されました。</p> <p>今年度からALCEの理事や事務局メンバーも新しくなりました。これからのALCEをより良い場としていくために、立場を気にせず気兼ねなくことばを交わすことができる機会を定期的に設けていくことが大切なのではないかと思います。対話を重ねながら、会員のみならずともこれからのALCEを形作っていきたいと思います。</p>			